

# 松本まりかさんが「千葉のさつまいもアンバサダー」に就任！

## 千葉県ならではのさつまいもの美味しさを伝えていきます



この度、千葉県は県産の「さつまいも」の魅力をより広く消費者に伝える為、俳優の松本まりかさんを「千葉のさつまいもアンバサダー」にお迎えしました。活動の第一弾として、松本さんは千葉県にある昆陽神社を訪れ、アンバサダーの就任報告をされました。昆陽神社には江戸幕府八代将軍徳川吉宗の命により、さつまいもの試験栽培を成功させ、その方法を普及した青木昆陽が「芋神さま」として祀られています。農業産出額全国2位の規模を誇る千葉県のさつまいもの美味しさをより多くの消費者へ届ける為、アンバサダーとして取り組まれる松本さんの活動に今後もぜひご注目ください。

### ■ 就任報告の様子



アンバサダー就任を報告する松本まりかさんと  
応援に駆けつけたチーバくん



昆陽神社

### 松本まりか プロフィール



松本まりか 俳優。1984年9月12日生まれ、東京都出身。B型。2000年、ドラマ『六番目の小夜子』でデビュー。多くの舞台やドラマに参加し、2018年にドラマ「ホリデイラブ」で大きな注目を集めた。2021年WOWOW「向こうの果て」で主演し、フジテレビ「最高のオバハン 中島ハルコ」「教場Ⅱ」と立て続けに出演。その他の出演作として、映画『ぜんぶ、ボクのせい』（22年）、映画『耳をすませば』（22年）、NHK大河ドラマ『どうする家康』（23年）、映画『アイスクリームフィーバー』（23年）、カンテレ・フジテレビ系「トクメイ!警視庁特別会計係」（23年）など。

幼少期を千葉県流山市で過ごし、その後家族とともに東京に引っ越す。当時の千葉の思い出を聞いたところ、「休みなく働きながら兄と私を1人で育ててくれた母。“食事だけは”と、料理上手な母は、当時から自然のもの、旬のもの、地産地消も積極的に取り入れ、美味しく食べさせてくれました。さつまいもは泥付きのものを買っていたのを覚えています。学校の授業でさつまいも掘りがあったのは、千葉が名産だったからなのか！と、今になって素敵な答え合わせが出来ました。私の美味しいモノ好きは、子供時代に培われたように思います。今回は千葉県のさつまいもアンバサダーとして、さつまいもがより美味しく、より親しみやすくなっていたらいいな、そんなお手伝いが出来たらなと思っています。」と語ってくれました。

### 【今後の予定】

2024年2月にイオンモール幕張新都心にて千葉県産のさつまいもの美味しさを伝えることを目的としたPRイベントの開催を予定しています。当日は松本まりかさん登壇によるトークイベントやさつまいもスイーツ等の販売を実施予定です。

<場所> イオンモール幕張新都心「グランドスクエア」

<日程> ・PRイベント：2/3（土）

・消費者向け出店イベント：2/3(土)～2/4(日)

※実施内容については変更となる可能性があります。

## 【参考】

# 千葉県 の さつまいも について

千葉県は、江戸時代、八代将軍・徳川吉宗の命を受けた**青木昆陽**（あおきこんよう）がさつまいもを試作し、栽培方法を広めたことでも知られ、現在も農業産出額全国2位の規模を誇る全国有数のさつまいもの産地です。

成田市、香取市、多古町など県北東部（北総地域など）を中心に栽培されており、北総地域の土壌は関東ローム層と呼ばれる火山灰土壌で水はけが良いため、おいしいさつまいもができると言われていました。

千葉県内の主要な産地では、品種に合わせた貯蔵期間を設けて、甘みがのったさつまいもを出荷しています。出荷は年間を通して行われ、10月から2月に最盛期を迎えます。

■ 特に美味 ■ 潤沢期 ■ 出始め及び終盤

冬		春			夏			秋			冬	
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
■		■			■			■			■	



## ＜主に栽培されている品種＞

品種は、ねっとりした食感とスイーツのような濃厚な甘みが特徴の「ベにはるか」や「シルクスイート」、香りが良く、ホクホクした食感と上品な甘みが特徴の「ベニアズマ」などがあります。さつまいもは、貯蔵すると甘みが増し、ねっとりした食感になるので、品種ごとにそのおいしさを最大限に引き出すため、品種に合わせた貯蔵期間を設けて順次出荷されています。

### ☆ベにはるか

千葉県の主力品種。糖度が高く、長時間貯蔵することで、濃厚な甘みとねっとりしっとりした食感が味わえます。

### ☆シルクスイート

収穫直後でも甘く、貯蔵するとさらにしっとり。シルクのようになめらかな舌触りが人気です。

### ☆ベニアズマ

繊維質が少なく、ホクホクとした食感と上品な甘さが特長です。

## 千葉県 の さつまいも 栽培 の 歴史

千葉県とさつまいもの関わりは、江戸時代の1732年（享保17年）に起こった「享保の大飢饉」のころから始まります。

江戸時代、たびたび襲った飢饉は多くの餓死者を出す悲惨なものでした。こうした飢饉を救う農作物として導入されたのが甘藷（さつまいも）です。

八代将軍吉宗の命を受け、現在の千葉市幕張と九十九里町で、青木昆陽によりさつまいもの試験栽培が行われました。

数年をかけ栽培は成功し、その後さつまいも栽培は全国に広がり、飢饉に苦しむ農民たちを救ったといえます。昆陽の偉業をたたえ、昆陽神社（別名「芋神さま」）が、幕張に建立されています。

江戸時代から約300年続く千葉県の産地では、高品質でおいしいさつまいもを栽培する技術が蓄積され、その品質が市場から高く評価されています。



青木昆陽肖像画  
(千葉市幕張公民館蔵)

※本資料に関する素材については、以下からダウンロードください。

＜リリースに使用している素材に加え、参詣した際撮影した動画も格納しております＞

<https://xgf.nu/BiWUy>

＜本件に関する報道関係からのお問合せ先＞

「ちばのさつまいも」PR事務局（広報代行：フロンティアインターナショナル内）

担当：原（070-2197-8943）、北川（070-2197-8790）

TEL：03-5778-4844 / FAX：03-3406-0130 / mail：frontier-pr@frontier-i.co.jp